

## ●京都教育大学実地教育用学習指導案(細案)の標準形式【小学校版】

小学校主免・基礎免の学生が教育実習履修年度に大学で受講する「初等教科教育実践論」と実習校での指導案作成をつなげる意味で改訂しました。

「初等教科教育実践論」ではこの形式を基にして指導されますので、特に指定が無い場合にはこの形式で各教科の学習指導案を作成してください。

なお、この標準形式はあくまでも「初等教科教育実践論」における指導案作成を基にした形式ですので、主免・基礎免実習で最初に実施するペア授業以降に作成する学習指導案は、実習校の教員の指導にしたがって作成してください。

### 1. 学習指導案とは

教科指導のために、具体的に日程・目標・方法・内容などを計画したものをいう。指導案を書くことは、「授業について構想し、見通しを立てること」である。そして、授業を行ったのちに、当初の想定は適切だったか、たとえば目標の設定は妥当だったか、内容と方法は整合していたか、子どもの考えを引き出す発問であったか、時間配分はどうであったかなどを振り返ることで次の授業に活かしていく。指導案通りに授業が運ばない場合には、その原因を考察する。従って、指導案を書くことが目的ではなく、見通しをもって、子どもの学習を自ら構想し、実践して確かめるという姿勢で書くことが大切である。

(1) 指導の目標を明確にし、1時間の指導を全体計画の中で正しく位置づけること。

(2) 目標達成のために必要な教材を選択並びに精選し、教師自身が教材の内容を深く理解し、児童(生徒)に何を指導するかを明らかにすること。

(3) 児童(生徒)と教材を結びつけるために、指導を工夫するとともに、学級の実態に即した指導を工夫すること。

(4) 1時間の指導の全体構想をもち、計画的、能率的、効果的な指導を心がけること。

などに留意することが大切である。

### 2. 指導案作成の基本原則

(1) 学習者の主体的活動の重視

(2) 学習の順序性の重視

(3) 望ましい学習集団の構成

(4) 新しい教育機器の利用

そのために、

① 指導目標の研究……………学習指導要領、指導書

② 教材研究……………教科書(教材)内容の検討

③ 指導法の研究……………講義、話し合い、討議、調査、実験、作業、製作、練習  
個別指導、小集団学習、一斉指導など

④ 指導過程に沿った時間配分……………導入、展開、まとめ(終末)

⑤ 目標達成の度合いに対する適切な評価

### 3. 学習指導案(細案)の標準形式

#### 1) ○○科学習指導案

2) 指導者 ○○ ○○

指導教員 ○○ ○○(教育実習時は記載)

- 3) 1 対象 第 学年 組 計 名
- 4) 2 日 時 平成 年 月 日 ( 曜日) 第 校時 : ~ :
- 5) 3 場 所 第 学年 組 教室
- 6) 4 指導内容 (学習指導要領の該当箇所)
- 7) 5 単元・教材名
- 8) 6 単元について
- 9) 7 単元目標
- 10) 8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

- 11) 9 単元の指導計画 (全○時間)
- 12) 10 本時の学習
- ① 本時の目標
  - ② 本時の展開
  - ③ 本時の評価の観点と方法

## 標準指導案を書き進めるにあたっての留意事項

1) どの教科の指導案であるかを示すために教科名を明記して「〇〇科学習指導案」と記す。

2) 指導者

校内の場合は氏名のみでよいが、市や府または全国レベルでの研究会の指導案の場合は、学校名も書く。教育実習時は指導教員名も記載する。

3) 対象 (学年・組)

第〇学年〇組 計〇名と書く。(男子 名 女子 名と書く場合もある。)

4) 日 時

元号で書くことが一般的である。〇〇 〇年〇月〇日 (曜日) 第〇校時 : ~ :

校内だけの場合は第〇校時でよいが、学校外の方が参加される場合は、学校により、授業時間の設定が異なる場合があるので、時刻を明記する必要がある。

5) 場 所

第〇年〇組教室 音楽の授業の場合は「音楽室」図画工作なら「図工室」体育なら「運動場」「体育館」など明記しておくこと。急な変更などがある場合は、必ず教室や掲示板に変更のお知らせをすること。

6) 指導内容

本単元で指導すべき内容が、学習指導要領のどの部分に該当するかということで、学習指導要領から引用する。

→学習指導要領では全ての教科等を、①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理されている。

※③学びに向かう力、人間性等は、指導内容全体で指導すると捉えている教科が多い。

7) 単元名 (題材名)・教材名

教科書に書かれている単元名 (題材名) と教材名を書いておく。

教科によっては、1単元 (題材) について複数教材の場合もある。

8) 単元 (題材)・教材について

この部分は指導案の根幹になるところである。指導案によっては、「単元について」とひとくくりになっていることもあるが、これを三観点に分けて書くことが多い。

大学や実習の初期では、児童の実態について把握することが難しいので教材観から書くことになる。

①教材観、②児童 (生徒) 観、③指導観

①教材観……教材設定の意義・理由、他の教材との関連性

ア 基本的には学習指導要領に準拠し、教材特性や学習の重点やポイントなどを分析する。

イ 教科書 (教材) を熟読し、分析し、深く理解することで教材の本質が見えてくる。

ウ 指導者が教材をどう捉えているか、児童 (生徒) にどのような力をつけていくのかを記述する。

<表記方法> ~となっている。 ~というねらいがある。 ~とされる。 など

②児童（生徒）観……児童（生徒）の興味・関心、能力、態度→高めたい能力、態度

ア 学級の児童（生徒）の各教科での実態、能力、学習課題

・その教科について、現在取り組んでいる活動と児童（生徒）の学習状況の現状をあげる。（その教科における理解度や到達状況と課題点）

イ 教材に対する児童（生徒）の興味の度合い

ウ 児童（生徒）理解を中心に据えた指導のあり方

・教師が一人一人の児童（生徒）の実態をいかに把握しているかで、児童（生徒）の目線にたった指導案を書くことができる。一部の児童（生徒）だけが理解できるような内容ではなく、いかに指導していけば学級全体が理解できるのかを常に考えていく。

<表記方法> 主語は学習者。～ができる。～を学習してきた。～に取り組んでいる。など

※課題点については、「～ができない」などの否定的な書き方ではなく、「～の苦手な児童もいるが、～に取り組むことによって徐々に理解が深まってきた」などの手だてを打つことによって改善してきたことや「～に取り組んできたが、苦手意識を持つ児童もいる」などのように、児童（生徒）を肯定的に捉えた書き方をすることが大切である。

③指導観 ……児童（生徒）の実態に対する対応の仕方

ア 教材の扱い方

・児童（生徒）の実情を捉えて、どのような教材を使って指導を進めていくのか。

イ 学習過程の組み方

・どのような工夫や手だてをして学習をすすめていくのかという、導入から最終までの指導のおおまかな道筋を示す。

・児童（生徒）のそれぞれの時間での授業に対する反応や理解を記述する。

ウ 視聴覚教材や資料などの活用法

エ 学習場面にふさわしい学習形態（個人、ペア、グループ、全体など）

<表記方法> 主語は教師。～させる。という書き方ではなく、～を指導する。～話し合い活動を取り入れる。～支援をする。～資料を活用する。などの表現が望ましい。

9) 単元（題材）・教材目標

単元全体の目標を育成する資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）に沿って設定する。学習指導要領や教科書の指導事項を参考にするとよい。観点は教科によって異なるので、各教科での観点と表記方法に従って書くとよい。また、単元によっては全ての観点が網羅されていないものもある。

<表記方法>主語は学習者。～理解する。～ができる。～工夫する。～表現する。～しようとしている。

10) 単元（題材）・教材の評価規準

各教科の学習指導要領の目標を踏まえ、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点について書く。学習指導要領の評価規準は、国立教育政策研究所教育課程研究センターの「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料に示されている。この資料を参照し、単元目標に沿って具体的に記すこととする。

11) 単元の指導計画

① 単元全体の指導内容を小単元に区分したり、教材のまとまりごとに区分したりして総時数を表すとともに、区分ごとの時間を表す。

② 指導の流れや位置づけが明確になる

<例>指導計画（全○時間）

第一次

・学習活動 (○時間)

第二次

・学習活動 (○時間)

第三次

・学習活動 (○時間 本時 / )

※「単元の指導計画」を「指導と評価の計画」として、評価の計画を加えてより詳細に記載する場合がある。国立教育政策研究所教育課程研究センターの「指導と評価の一体化」参照。

12) 本時の学習

①本時の目標

- ア 1時間の指導に方向を与え、能動的に推進する力になるものである。
- イ 目標と評価は表裏の関係にあるので、本時の目標は評価規準と対応している。
- ウ 本時の目標に観点の全てをあげず、本時に関係のある観点到絞る。
- エ 表現は、指導の焦点が集約されて示されるよう精選する。具体的に要点をおさえ、児童（生徒）の立場に立った表現で箇条書きとする。

<表記方法>主語は学習者。～考える。～表現する。～に気づく。～できる。～身につける。など

②本時の展開

- ア 本時の目標達成をめざして、教師の指導活動と児童（生徒）の学習活動が組み合わされて、1時間の授業が展開される。
- イ 学習の流れが、見てわかるように書くことが大切である。教師と児童（生徒）の活動と関係を時間的経過で書く。
- ウ 軽く扱うところ、重点をおくところなどを考えて時間配分をする。
- エ 学習内容や教師の働きかけに対する児童（生徒）の活動を具体的に書く。語尾は、「する」で表す。
- オ 指導案に書く発問や児童（生徒）の反応は、台詞のように書くのではない。しかし、授業を進めていくにあたっては授業の流れを想定し、教師の発問に対する児童（生徒）の反応予想を全てあげてみて、それを取捨選択しながら、指導過程を構成する重点を意識していくことが必要となる。また、授業を進めていく上では、教師の発問と児童（生徒）の反応が詳細に書かれたものがあることで、授業について具体的にシミュレーションすることができる。
- カ 留意点には、活用資料、学習形態、助言や机間指導の観点、指導上の心構えや支援などを具体的に書く。
- キ 授業に必要な、教師用・児童（生徒）用資料、教具、利用する情報機器なども書く。

○導入（分）

- ・児童（生徒）が「なぜ」「どうして」という興味・関心を持つことで、「調べてみたい」「やってみよう」「考えてみたい」と、これからの授業に意欲をもって取り組んでいくきっかけになる。
- ・児童（生徒）の経験や既習の知識を整理して、学習の動機づけをする場合もある。

○展開（分）

- ・児童（生徒）各自が十分に思考、活動ができるよう工夫する。学習が発展する契機となるような教材・教具・資料をどこで、どのように提示するかを考え、児童（生徒）の活動が連続して進められるように工夫する。

- ・発問が非常に大切になる。一問一答の発問になりがちなので、児童（生徒）の主体的な学習活動を引き出して行く発問を考えなければならない。（中心的発問）
- ・授業者は、児童（生徒）の反応や応答を前提に授業を組み立てるものなので、まず学習者がどのような反応や応答をするかを予想して考えていくことになる。ここでも、児童（生徒）理解の重要性があげられる。
- ・学習場面にふさわしい学習形態（個人、ペア、グループ、全体など）を考える。

#### ○まとめ（分）

- ・本時のまとめをする。この時、教師が学習のまとめをしがちだが、児童（生徒）の発表によって本時のまとめを行うことが望ましい。わかっているつもりでも、人に説明することでより理解が深まるものである。
- ・本時のふりかえりカードやワークシートにまとめる。書くことで本時をふりかえり、学んだことを確かめることができる。

#### ③本時の評価の観点と方法

- ・本時の目標との整合性をはかる。
- ・評価の観点をふまえ、評価規準を具体的に書く。
- ・評価方法についても書く。（発言の内容・行動の観察・ノートの記述・ワークシートの記述 など）

#### ○板書計画

- ・板書を見ればその1時間の流れがわかり、内容が理解できるものであることが望ましい。
- ・児童（生徒）の問題意識やめあてを提示物にして貼る。
- ・電子黒板を使用するときは、板書計画にも提示する。

#### ※注意事項

- ・字は丁寧に児童（生徒）にわかりやすいものでなければならない。特に学年が小さいほど先生の字の丁寧さが、児童の字の丁寧さを左右するといっても過言ではない。これは練習次第で、必ず上手になる。
- ・書き順についても、児童（生徒）の前で板書する以上は正しいものでなければならない。
- ・チョークやペンの色にも注意が必要である。児童（生徒）がよく見えるものでなければならない。
- ・まっすぐに書いていくこともなかなか難しいものなので、事前に板書してみる。

#### ○資料

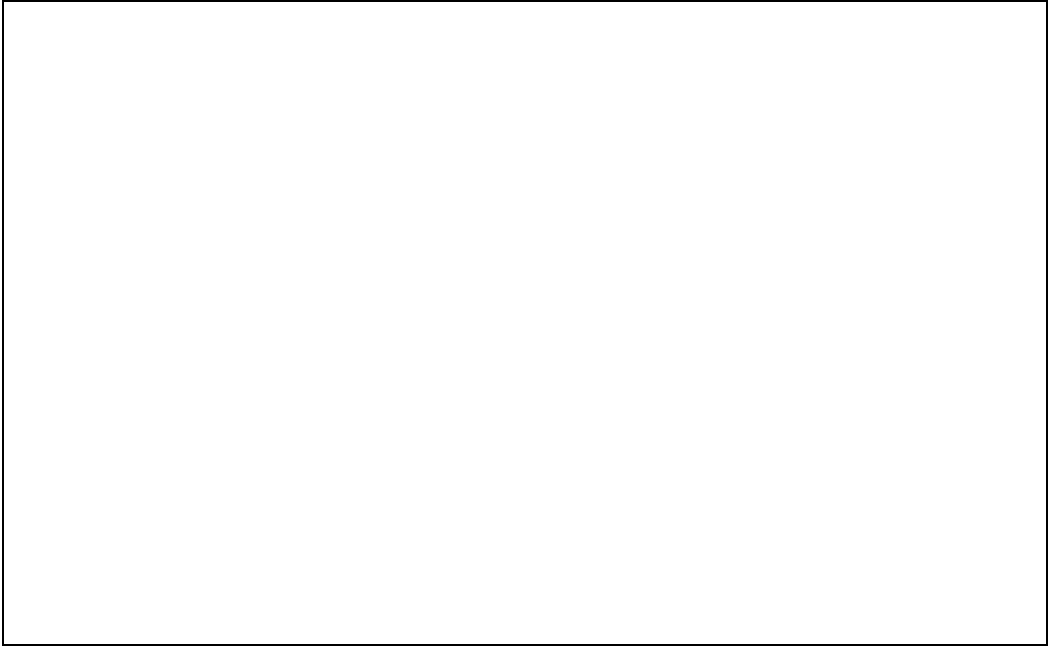
- ・授業で児童（生徒）に配布したプリント、ワークシート等は添付する。
- ・電子黒板やタブレットを想定したプレゼンテーションをする場合は、使用したスライドなども添付する。

②本時の展開例

区分	学習活動と内容 (○教師の発問と・予想される児童の反応)	指導上の留意点・支援と評価 (・留意点◇教師の支援■評価の観点と方法)	準備物・ 資料等
導入 5分	1, 本時の学習内容についての興味・関心を持つ ○教師の発問 ・予想される児童(生徒)の反応(発言や行動を想定して書く) ・ ・		
展開 35分	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; margin-bottom: 5px;">本時の課題</div> 2, 本時の課題を知る ○教師の発問 ・ ・ 3, 個別で課題に取り組む ○教師の発問 ・ ・ 4, ペアやグループ内で交流する ○ ・ ・ 5, 全体交流して考えを深める ○ ・ ・	・全体に向けて注意すべき点など ◇つまずいている児童(生徒)に対するアドバイスや具体的な手だてなど。  ■評価の観点や方法について(発言)	カードや 必要な機器          ワークシート
まとめ 5分	6. 本時の学習をふりかえる ○ ・	■評価の観点や方法について(ワークシート)	

③本時の評価の観点と方法

板書計画



資料等